

# 平成 29 年度病虫害発生予察 注意報 第 3 号

平成 30 年 2 月 5 日

大分県農林水産研究指導センター

農業研究部

対象作物：イチゴ

対象病虫害：ハダニ類

- 1 対象地域 県内全域
- 2 発生面積 多い
- 3 発生量 多い
- 4 発表の根拠

1 月中旬の巡回調査では、発生圃場率、寄生株率ともに平年より高かった。

発生圃場率 : 50.0 % (平年 : 34.4 %、前年 : 50.0 %)

平均寄生株率 : 20.8 % (平年 : 7.0 %、前年 : 7.2 %)

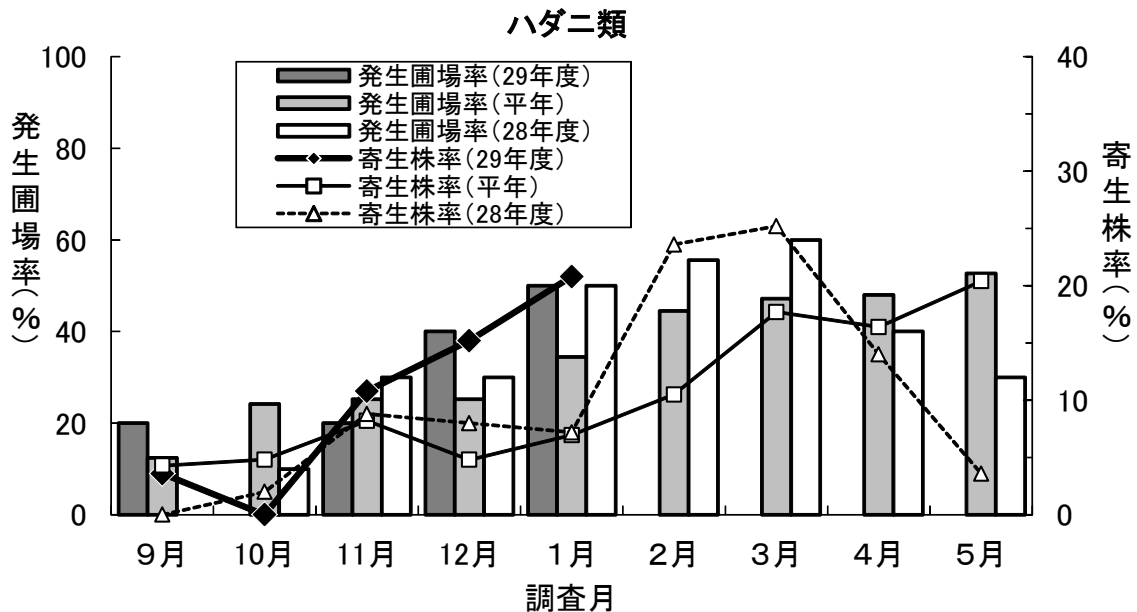


図 病虫害発生予察巡回調査におけるイチゴハダニ類の発生推移

## 5 防除対策

- (1) すでに多発生が認められている圃場では、気門封鎖剤を中心に複数回防除を行ってハダニ類の密度を下げてから、天敵（カブリダニ類）を導入する。
- (2) 本虫は、紫外線を嫌って下葉の裏に多く生息する。気門封鎖剤は薬液が直接虫にかかると効果がないため、薬液が葉裏にかかるように丁寧に散布する。また、短期間に複数回散布すると効果が高まる。

- (3) 気門封鎖剤に展着剤を加用すると効果が落ちるため注意する（サフオイル乳剤は加用を推奨）。なお使用実績のない気門封鎖剤は、あらかじめ数株に散布して薬害の状況を確認する。
- (4) 天敵の導入にあたっては、薬剤によっては長期間天敵に悪影響を及ぼすものがあるため、天敵導入前の薬剤の選定は十分に注意する。
- (5) 天敵導入後ただちに薬剤散布を行うと、殺菌剤であっても悪影響が懸念されるため期間をあける。また防除には展着剤も含めて天敵への影響が少ないものを選定する。
- (6) 防除薬剤は、大分県農林水産研究指導センター病害虫対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」(<http://www.jppn.ne.jp/oita/>)の「いちご」「野菜類」の項を参照する。なお、薬剤によっては、指針の更新日以降に登録内容が変更されている場合があるため、容器のラベルに従って使用する。



病害虫対策チームホームページ